

編集後記

以前、若手の複数の研究者に『企業家研究』の評判について聞いたことがあります。その時の反応は、「ややハードルが高いかもしれない」というものでした。その解釈はさておき、本誌は一定の高い水準にあるとみられていることは間違いなさそうです。経営史、経営学、経済学等の各ディシプリンから企業家にアプローチする本誌の価値は確実に高まってきているといえるのではないのでしょうか。『企業家研究』第18号も、投稿者、レフェリー、編集委員の建設的対話プロセスを経て、価値ある論説1本、研究ノート1本、特集論説1本、書評3本を掲載することができました。

岡室・猿楽論文は、東日本大震災を例に、自然災害と新規開業との関係性について、統計データを駆使して解析を加えています。近年、世界的に関心が増している自然災害や危機に対する企業家の思考や行為にかかわり、本論文は、頑健性の高い統計分析で復興プロセスの中で開業率が高まった発見事実を示しました。近年のCOVID-19とも関連し、不確実性が高く、先行きが見通せない、未曾有の危機に対する企業家行動の社会的意義について深く考えさせられた論考といえるのではないのでしょうか。

伊藤・福本論文は研究ノートではありますが、今後の論説につながる興味深い内容でした。起業家の試行錯誤プロセスを捉えるには、起業家との二人称的な関わり合いならびに共倫的な関わり合いへの理解が必要になることを主張し、フィールドワークにおける起業家と研究者との関わり合い方について問題提起をしています。事例研究に携わる実証研究コミュニティに一石を投じるインパクトのある論考といえるのではないのでしょうか。

中西論文は、近世期の青森県野辺地港を事例として、遠隔地間の帆船輸送が汽船輸送に代替された後、帆船輸送業者がいかに経営を展開していったかについて論じています。そこでは、野辺地と北海道の流通ルートで実施した野坂家の三角貿易、白銀家による野辺地と北海道の往復輸送などが詳述され、当時の企業家活動の実態が明らかにされました。大きく時代が変化する中で、企業家がいかに考え、行動し、経営したのか。現代に通じるインサイトが多々みられました。

歴代の編集委員長、編集委員、レフェリー、投稿者の協働により、質の高い学術ジャーナルとして一定の地位を得た本誌ではありますが、さらなる企業家マインドを発揮して、本誌は年2号体制へと移行する予定です。会員各位からのさらなる挑戦的な投稿により、本誌は次のステップへと向かおうとしています。すこし、ワクワクしながら、本誌の今後の発展をウォッチしていきたいと思います。

(江島由裕)

執筆者紹介 (五十音順, 敬称略)

伊藤 智明	京都大学特定助教
岡室 博之	一橋大学教授
奥村 昭博	慶應義塾大学名誉教授・ファミリービジネス学会会長
猿楽 知史	楽天株式会社
島本 実	一橋大学教授
中西 聡	慶應義塾大学教授
廣田 誠	大阪大学教授
福本 俊樹	同志社女子大学助教
星 久仁子	関西学院大学准教授

編集委員名簿 (五十音順, 敬称略)

委員長	田中 一弘	一橋大学教授
副委員長	江島 由裕	大阪経済大学教授
	鹿住 倫世	専修大学教授
	島本 実	一橋大学教授
	廣田 誠	大阪大学教授
委員	伊藤 博之	大阪経済大学教授
	稲葉 祐之	国際基督教大学上級准教授
	上野 恭裕	関西大学教授
	梅崎 修	法政大学教授
	大島 久幸	高千穂大学教授
	金 容度	法政大学教授
	小阪 玄次郎	上智大学准教授
	佐々木 聡	明治大学教授
	佐藤 政則	麗澤大学教授
	新藤 晴臣	大阪市立大学教授
	杉山里枝	國學院大学教授
	中島 裕喜	南山大学教授
	延岡 健太郎	大阪大学教授
	原田 信行	筑波大学准教授
	平野 恭平	神戸大学准教授

※2021年5月10日現在

『企業家研究』第18号

2021年7月1日印刷, 2021年7月10日発行

発行所 企業家研究フォーラム

会長 山田 幸三

〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町1-4-5

大阪産業創造館B1F

大阪企業家ミュージアム内

株式会社 有斐閣

東京都千代田区神田神保町2-17

印刷 大日本法令印刷株式会社

製本 長野県長野市中御所3-6-25

ISBN 978-4-641-49970-6 ISSN 2434-0316

